

2023年度 人工林整備事業（間伐）の取組について

1 人工林整備事業（間伐）について

林業活動では整備が困難な人工林の間伐を行っている。中でも、防災・減災やライフラインの確保の観点から、道路沿い、集落周辺、河川沿いの森林整備を重点的に進めている。また、伐採木については、災害時の被害軽減及び木材の有効利用を図るため、積極的に搬出を行っている。

2 2023年度間伐実績（見込み）について

工事数	間伐面積	工事費	搬出材積	防災減災対策延長	工事単価
35件	962ha うち防災減災 678ha(70%) その他 284ha(30%)	1,121,146千円 (執行率：99%)	6,410 m ³	39,031m	1,165千円/ha

3 伐採木の搬出を積極的に行った事例

○工事概要

施工場所：北設楽郡設楽町津具字西高山 地内

施工面積：33.96ha

施工期間：2023年5月23日から2024年3月11日まで

契約金額：43,275,100円（1,274千円/ha）

請負業者：設楽森林組合

間伐本数：11,992本（353本/ha、間伐率約38%）

搬出先：HOLZ三河

搬出量：1,853 m³
 （既設道沿い約300 m³、開設作業路沿い約1,500 m³）

作業路開設：1,440m

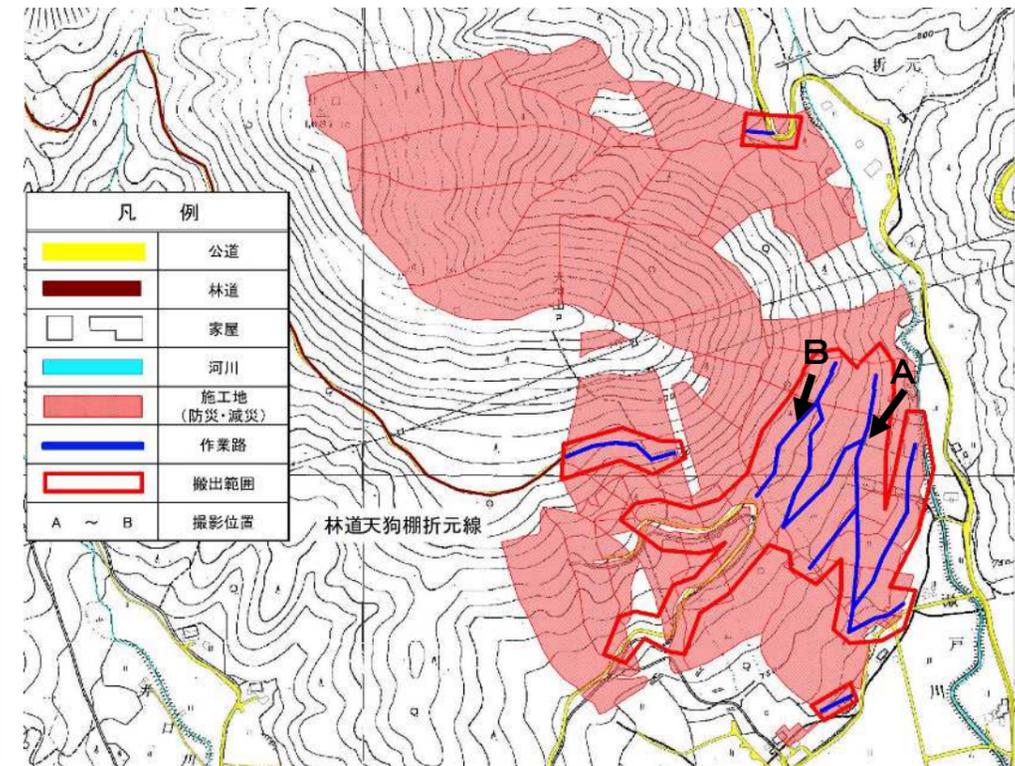
上記の内数

特殊伐倒本数 牽引134本、高所作業車16本、樹上作業1本

特殊伐倒費 1,628,000円

搬出費 20,561,000円

作業路開設費 540,000円



1 次世代森林育成事業について

森林の若返りを図り、森林が有する公益的機能を将来にわたって持続的に発揮させるため、高齢化したスギ・ヒノキ人工林の皆伐後に行う花粉症対策苗木の植栽及び獣害対策や植栽後の保育に対して支援している。また、シカ等により被害を受けた植栽木の補植と併せて行う獣害防止柵の補修を2021年度から補助の対象としている。

2 事業内容

区 分	内 容	補 助 率	補 助 対 象 者
① 植 栽 (補 植)	・花粉症対策苗木（少花粉スギ・ヒノキや広葉樹の苗）の植栽 ・原則、コンテナ苗を使用した密度1,500本/ha植えを標準	定額 ※県が定める造林 事業標準単価に 基づき交付	森林所有者 森林組合 林業経営体 等
② 獣害対策	・植栽に併せて行う獣害対策としての防護柵等の設置		
③ 下 刈	・植栽年度の翌年度から起算して1～5年目に行う坪刈り、各年度1回まで		
④ 除 伐	・植栽年度の翌年度から起算して6～10年目に行う除伐		

※ ②～④は①の施工地を対象とする。

3 取組事例について

【植栽・獣害対策】

- 事業地：北設楽郡豊根村下黒川字猪見谷下 地内
- 皆伐前の現況：スギ・ヒノキ 58～66年生
- 面積：4.66ha
- 植栽樹種：少花粉スギ 5,500本、コナラ 2,000本
- 獣害対策：獣害防止柵 885.6m

【下 刈】

- 事業地：豊田市稲武町川向 地内
- 面積：2.30ha
- 植 栽：2018年度に植栽したが獣害被害を受け
2022年度に本事業にて補植・獣害防止柵補修を実施

【木製PR看板】

- 設置場所：豊田市阿蔵町保戸嶋 地内
- 規 格：木製大型看板（土中埋込式）
全体サイズ 縦2.12m×幅2.35m
パネル板 縦1.00m×幅1.80m
使用木材 あいち認証材
木材使用量 0.307 m³



獣害防止柵設置中



植栽作業中



下刈り作業中



看板設置状況

2023年度 里山林整備事業（提案型里山林整備事業）の取組について

1 提案型里山林整備事業について

手入れが行き届かず、人々に利用されにくくなった都市近郊の里山林を、地域住民やNPO等が環境学習や保全活動の場として活用するために、市町村が行う里山林の整備に対して支援している。

2 事業内容

事業内容	基本的な条件	補助率	交付対象者
<ul style="list-style-type: none"> 森林調査、測量 施設整備（管理道、作業小屋、森林整備機材等） 地域住民等では実施が困難な森林整備 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村が地域の住民、団体等と協働・連携して、維持、保全及び利活用を継続して行うための計画を策定 市町村及び森林所有者と活動団体の3者で協定を締結 1事業地5ha未満（原則森林法第5条森林で保安林を除く） 	10/10以内 ※1箇所あたり 上限は30,000千円	市町村

3 取組事例について

- 事業地：東郷町大字諸輪字後山 地内
- 面積：1.25ha
- 事業期間：2020年度～2024年度（予定）
- 事業費：全体事業費（交付金額）29,959千円（予定）
- 実施内容：

2020年度 森林調査（森林整備・施設整備の計画策定）	各年度事業費 996千円
2021年度 森林整備（樹木伐採）施設整備（機材搬入路の確保）	4,950千円
2022年度 森林整備（樹木伐採）	7,763千円
2023年度 森林整備（樹木伐採）	7,750千円
2024年度 施設整備（作業小屋及び休憩施設）	8,500千円（予定）

地域活動団体の概要

名称：御嶽の里山を守る会 代表 加藤喜嗣
 会員数：15人
 活動目的：御嶽神社を中心とした豊かな自然環境づくり
 活動内容：神社周辺の清掃、歩道の維持管理、普及啓発

※活動団体の取組

御嶽神社（祠）の利用者が安全に里山林を利用できるよう、簡易な伐採、枝払い、草刈り、掃除、歩道整備などの維持管理
 地元の園児・児童に対して教育活動の場として活用する。また、神社の大祭と連携し地元の歴史を地域内外に広く発信する。



境内入口の樹木伐採



祠上部にあった危険木の伐採



団体による活動（枯れ木の除去）

1 里山林整備事業（里山林保全活用指導者養成研修）について

里山林保全活用の取組に多くの県民が興味を持ち、安全・安心に参加できるようにするため、里山林における活動を実践する能力を備えた指導者の育成及び里山林に関わる多様な人材の交流の推進が必要である。あいち海上の森センターでは、県民が身近な森林・里山林の保全や管理、活用に関する知識と技能を習得する「海上の森アカデミー」（3コース／年）を2017年度から開催し、人材の育成を図っている。また、2019年度から「海上の森NPO・グループ活動発表ひろば・交流会」（1回／年）と称し、海上の森で活動する団体の1年間の活動報告や団体同士の交流を図る場を設けている。

・海上の森アカデミー実施内容

コース名	実施内容
① 森の自然教育コース	<p>“森で子どもと遊べる大人になろう”を目標に、里山や公園など身近な森林環境・資源を活用し、子供に自然と触れ合う機会を提供するための知識・技術を習得する。</p> <p>（2023年度実績：全5回、9名修了）</p> <p>第1回「自然体験活動のプロから学ぶ 焚き火のおこし方」、第2回「木登りのプロから学ぶ 安全とロープワーク」、第3回「木工のプロから学ぶ 木工のナイフワーク」、第4回「庭づくりのプロから学ぶ 自然の中の遊び場づくり」、第5回「自然のプロから学ぶ 生きものとの遊び方」</p>
② 森女養成コース	<p>森林ボランティア等、何らかのかたちで森づくりに関わる女性（=森女（もりじょ））になるための基礎的な知識や技能を習得する。</p> <p>（2023年度実績：全6回、8名修了）</p> <p>第1回「森の健康診断」、第2回「チェーンソーの使い方を学ぶ」、第3回「チェーンソー実践」、第4回「山の棚おろし」、第5回「搬出・製材・加工・森あそび」、第6回「まとめ」</p>
③ 里山暮らしコース	<p>里山の資源を活用したモノづくりの実習を通して、里山の価値を認識してもらうとともに、現代における里山資源の活用や人と自然の共生する里山の暮らしについて考えを深める。</p> <p>（2023年度実績：全6回、10名修了）</p> <p>第1回「やきもの①」、第2回「草木染め」、第3回「山仕事 事始め」、第4回「やきもの②」、第5回「やきもの③」、第6回「ミライの里山の暮らしを考える」</p>

・海上の森NPO・グループ活動発表ひろば・交流会

実施内容：①活動報告ポスター展示（展示期間：2024年2月20日～3月20日）

参加団体：7団体

②交流会（実施日：2024年3月2日）参加団体：7団体（計19名）

2 取組の様子

・海上の森アカデミー

① 森の自然教育コース



第1回（焚き火おこし）



第3回（ナイフワーク）

② 森女養成コース



第1回（森の健康診断）



第3回（伐倒作業）

③ 里山暮らしコース



第1回（作陶）



第3回（薪割り）

・海上の森NPO・グループ活動発表ひろば・交流会



活動報告ポスター展示



交流会

2023年度 都市緑化推進事業（身近な緑づくり事業・県民参加緑づくり事業）の取組について

1 都市緑化推進事業（身近な緑づくり事業）の取組について

都市緑化推進事業（身近な緑づくり事業）では、市街化区域及びその周辺で既存樹木の保全及び環境改善、延焼防止などの機能を有する新たな緑地及び緑化施設を創出する事業に対して支援している。

○取組事例

【矢戸川樹林地整備事業】

事業地：矢戸川樹林地（大府市柘山町）

事業期間：2021年度から2023年度

2021年度：用地買収（2,510㎡）

2022年度：用地買収（2,700㎡）

2023年度：樹林地整備（散策路等）

面積：5,210㎡

概要：矢戸川緑道に隣接する放置された私有樹林地について、市が用地を取得し散策路等の整備を行うことにより、樹林地の適切な保全を図るとともに市民の憩いの場を創出。大府市緑の基本計画に設定されている水と緑のネットワーク形成に寄与。



(整備中)散策路①



(整備中)散策路②

2 都市緑化推進事業（県民参加緑づくり事業）の取組について

都市緑化推進事業（県民参加緑づくり事業）では、公有地において県民参加による樹林地整備、植栽、ビオトープづくりなどの緑づくり活動、体験学習や都市緑化の普及啓発を実施する事業、及びこれを市民団体が実施する場合の事業に対して支援している。また緑の活動を実施する市民団体を育成するため、市民団体等の活動に講師の派遣等をする事業に対して支援している。

○取組事例

【天王川公園市民参加植栽事業】

事業地：天王川公園（津島市宮川町）

実施日：2023年10月28日

参加人数：のべ90人

概要：天王川公園において、藤棚東側の竹林伐採後の法面で、地域住民参加によるガザニアの植栽イベントを実施した。公園整備の一部を地域住民で行うことで、公園への愛着の形成、都市緑化への意識の高揚などを図る。



実施状況①



実施状況②

2023年度 環境活動・学習推進事業の取組について

1 環境活動・学習推進事業について

「県民共有の財産」である森と緑を次世代に引き継いでいく必要があることから、環境活動・学習推進事業では、NPOやボランティア団体など多様な主体が行う自発的な森と緑の保全活動や、日常生活の中で次第に失われつつある森林とのふれあいなどを体験・学習する機会の提供を通じて森と緑を社会全体で支えるという機運を醸成する環境学習について、交付金を交付して支援している。

2 事業の内容

交付対象事業		取組内容
環境保全活動	1 森・緑の育成活動事業	多様な生態系の保全やふれあいの場の創出など、健全な緑を保全・育成するための事業又は同取組を新たに立ち上げるために必要な事業 【例：多様な生物が生息・生育するための植物等の保全活動、ビオトープ及び周辺の自然環境の整備、新たな育成活動に向けた調査、自然環境管理計画の策定 等】
環境学習	2 水と緑の恵み体感事業	山・川・海のつながりや人をはじめとした生物が享受している水と緑の恩恵を学ぶ事業 【例：山・川・海のつながりを理解するための流域での体験学習の実施 等】
	3 森林生態系保全の学習事業	森林生態系の保全の大切さや手法を学ぶ事業 【例：自然観察会等を通じた森林生態系保全に関する環境学習の実施 等】
緑の教室	4 太陽・自然の恵み学習事業	地球温暖化対策等に役立つ緑の生育や木質バイオマスの利用等を通じて太陽や自然の恵みについて学ぶ事業 【例：緑のカーテンなど植物（緑化）の生育実習と環境学習講座の実施、木質バイオマスである薪・炭等作り及び利用体験を通じた環境学習講座の実施 等】
独自提案	5 独自提案による環境保全活動・環境学習事業	上記の1～4に該当しない創意工夫を凝らした独自の生物多様性に関連した環境保全活動及び環境学習事業

*NPO、ボランティア団体、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合、自治会、私立学校等及び市町村を補助対象者としている。

3 取組事例について

- 事業主体：劇団シンデレラ
- 事業内容：ミュージカル「ゴールデンウィークは森へ行こう」を通じて、サシバの棲む里山と湿地の大切さを伝える。（5 独自提案による環境保全活動・環境学習事業）
- ・5月のゴールデンウィーク中に「豊田市自然観察の森」で開催された「ゴールデンウィークは森へ行こう」というイベントにおいて、絶滅危惧種の鳥類であるサシバをテーマに、里山と湿地の大切さを伝えるミュージカルを上演した。
- ・SDGsや生物多様性保全に係る話題を盛り込みながら、ミュージカルという親しみやすい手法で、保全活動の重要性をわかりやすく伝えることができた。
- ・ミュージカルの公演とあわせて、専門家によるサシバについての講演を実施し、ミュージカルの背景知識を伝えることで、観客の学習効果を高める工夫をしている。また、劇団員は、事前に専門家から講義を受けた上で、公演にのぞんでいる。



劇団員の練習風景



事前講義を受ける劇団員たち



専門家によるサシバの講演



ミュージカルの様子

生態系ネットワーク形成推進事業の取組について

1 背景

森から都市の緑まで地域本来の自然環境を保全・再生して繋げ、「生態系ネットワーク」の形成をしていくためには、多様な主体が連携して、地域の特性を踏まえたビオトープを創出・維持していくことが不可欠である。

このことについて、ビオトープ創出のための調査やビオトープの創出に対して必要な支援を実施することで、県全域の生態系ネットワークの形成を図っているところである。今後もこの取組を継続し、生態系ネットワークの形成をより一層推進することで、県全域にわたって生き物の生息生育空間のつながりを維持・創出していく必要がある。

なお、「生態系ネットワークの形成」は、本県が2021年2月に策定した「あいち生物多様性戦略2030」の中核的な取組としても位置づけている。

2 「あいち森と緑づくり生態系ネットワーク形成事業交付金」の概要

県民、事業者、NPO、行政等の地域の様々な立場の人々が協働して、生き物の生息生育空間を保全・再生・創出し、地域の生態系ネットワークを形成する事業を支援する制度

(1) 交付対象事業

交付対象事業		事業内容
ア	ビオトープ創出事業	水辺や樹林地など生きものの生息生育空間を新たに創出し、地域の生態系ネットワーク形成を進める事業
イ	ビオトープ維持・向上事業	既にある生きものの生息生育空間を整備し、質の維持・向上を図る活動により、地域の生態系ネットワーク形成を進める事業
ウ	調査事業	上記ア、イの実施にかかる生態系ネットワーク形成のための調査

(2) 交付対象団体

生態系ネットワークの形成を目的とする、NPO・ボランティア団体・農協・漁協・森林組合・自治会・大学・企業・市町村等の複数の団体から構成される団体

(3) 限度額

1件あたり300万円

<参考> 過去の交付対象団体数及び交付金額

「あいち森と緑づくり生態系ネットワーク形成事業交付金」を活用して、これまで水辺ビオトープの整備や在来種の植樹、ビオトープ創出のための調査などが県内各地において実施されてきた。

()内の額は各交付団体への交付金額の合計額

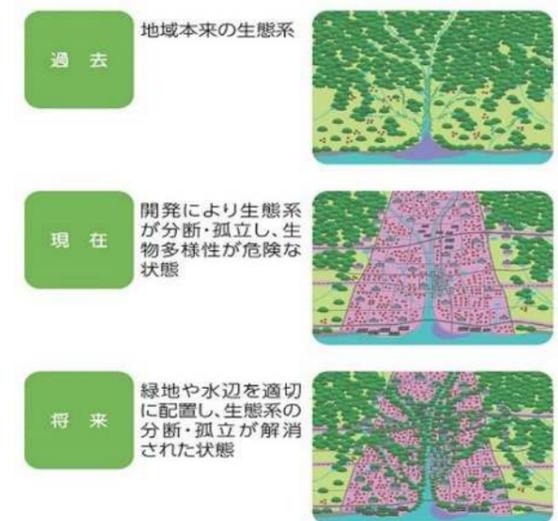
2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度(見込み)
4団体 (9,176千円)	5団体 (9,800千円)	3団体 (8,705千円)	3団体 (8,300千円)	3団体 (7,500千円)	3団体 (8,000千円)



苗木循環育成モデル化事業
(西三河生態系ネットワーク協議会)

生態系ネットワークとは？

地域本来の豊かな自然環境は、様々なタイプの生態系が連続的につながって形成されており、これを「生態系ネットワーク」という。しかし、土地開発などによってネットワークが分断されると、野生生物の自由な行き来が阻害され、生物の多様性も影響を受けることになる。



<生態系ネットワークのイメージ>

2023年度 普及啓発事業（木の香る都市づくり事業）の取組について

1 木の香る都市づくり事業について

全国植樹祭の開催理念を引き継ぎ、都市部の木造・木質化を通じて、県民の森と緑に対する理解を深めるため、多くの県民が利用するPR効果の高いモデル的な施設の木材利用に対し支援している。

2 取組事例について

- 施設名
あつたnagAya（A棟、B棟、C棟）
（※C棟は補助対象外）
- 所在地
名古屋市熱田区神宮三丁目 608 他
- 事業主体
名古屋鉄道株式会社
- 事業内容
施設の木造化
- 施設の規模・構造等
 - ・ 木造平屋建て
（延べ床面積 A棟 449.02 m²
B棟 383.45 m²
C棟 461.85 m²）
 - ・ 木材使用量 183.9 m³（C棟除く）
（うち県産木材 146.4 m³）
- 施設年間利用者数（予定）
約 1,500,000 人
- 開業：1期開業 2024年9月予定
（A棟、B棟）
2期開業 2024年12月予定
（C棟）
（木工事完了：2024年2月20日）

3 施設の特徴

熱田神宮の玄関口である名鉄神宮前駅西街区に位置する「あつたnagAya（あつたながや）」は、3棟の木造平屋建物で構成された商業施設である。

熱田神宮側の大通りに面した部分は、神社等で見られる特徴的な屋根形状のデザインで熱田神宮を訪れる人々を迎える。

また、小屋組み等の木架構をそのまま見せる仕上げにより、木材の温もりが感じられる施設となっている。

建物の柱や梁桁等の構造躯体には、木材の調達のしやすさやコストを考慮して、愛知県産のスギ・ヒノキの一般流通規格材を使用している。

